

福岡・辻田西遺跡

1 所在地 福岡県北九州市八幡西区馬場山
 2 調査期間 一九七九年（昭54）七月～一九八〇年（昭55）一月
 3 発掘機関 北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室
 4 調査担当者 梅崎恵司・宇野慎敏・佐藤浩司・山手誠治・栗山伸司

5 遺跡の種類 集落跡

6 遺跡の年代 弥生・鎌倉・室町時代

7 遺跡及び木筒出土遺構の概要
 辻田西遺跡は、弥生時代墓地群である馬場山遺跡の南約一五〇mの、馬場山丘陵と隣接する微高地上に位置する。一九七六年（昭51）に北九州直方道路建設に先だって調査が行われた辻田遺跡と接し、遺跡の性格からして一連のものと思われる。

調査は、旧産炭地としての後遺症から農地の地盤沈下が著しく、地上げと農地改良を兼ねた事業に伴って実施された。

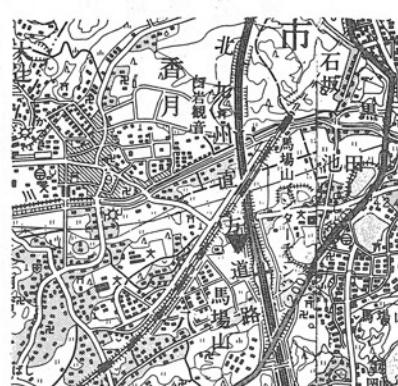
遺跡は、弥生時代の竪穴住居跡を主とする柱穴群が多数を占め、堅穴住居跡二六基、掘立柱建物跡二〇棟、溝六条、土壙一一基、貯蔵用堅穴一基、井戸二基が検出された中で、大半が弥生時代の所産



木筒 (2)



木筒 (1)



(直方・行橋)

である。

また、馬場山丘陵に近い谷部では広範な泥炭地を形成しており、中から多数の木器、漆器、土師器、銅鏡に二点の木筒が出土している。木器には下駄、杓子、曲物の底板、蓋、槌の子、砧、鞍、机などがあり、銅鏡には開元通宝から紹定通宝まで一七枚出土している。土器は土師器の杯、皿類が大半であるが、一部陶磁器もある。

この泥炭層は出土土器から鎌倉時代後半頃であることが判り、同層から出土した銅鏡の中で最も新しい紹定通宝が一三世紀前半の铸造であることから、比較的幅の狭い時期の遺物が大勢を占めるものと思われる。

8 木簡の釈文・内容

(1) 「粂四斗御□中

(202)×18×8 011

木 簡 研 究 第三号

(2) 「御倉粂四斗三郎太郎□□」

232×19×5 011

卷頭言——中国簡牘呼称についての提言——

大庭 僥

(1) は下端に焼痕があり、わずかに欠損している。二点ともに泥炭

層からの出土であり、鎌倉時代後半に比定される。釈文中の粂四斗の表現から一俵の米俵を意味したものと思われる。

9 関係文献

北九州市教育文化事業団 『辻田西遺跡』(北九州市埋蔵文化財調査報告書第十三集)

一九八二年
(栗山伸司)

概要 平城宮・京跡 平城京左京(外京)五条五坊七坪 藤原宮跡 稲田遺跡——下ツ道—— 長岡京跡 大藏司遺跡 西沖遺跡 御殿・二之宮遺跡 野路岡田遺跡 多賀城跡 漆町西遺跡 桜町遺跡 白山橋遺跡 御館遺跡 御着城跡 鶴・城山遺跡 草戸千軒町遺跡 野田地区遺跡 観世音寺僧房跡 大宰府学校院跡東辺部

一九七七年以前出土の木簡 (3)

平城宮跡(第二一次・第二三次北)

薬師寺 下岡田遺跡

中国における簡牘研究の位相

庸米付札について

池田 温
狩野 久

静岡県城山遺跡出土の具注曆木簡について
草戸千軒町遺跡出土の木簡——形態を中心にして——

原 秀三郎
志田原重人

彙報

価格 三五〇〇円 一四〇〇円